

情報誌を通して、学区の住民がまちに魅力と愛着を感じて欲しい

【愛宕学区】 あたご夢のまちだより発行

《学区データ》

学区名：愛宕学区

世帯数：1,890世帯

(平成26年3月1日現在)

《団体データ》

団体名：愛宕学区社会教育委員会

事業開始年度：平成19年度



◆取組のきっかけと経緯

愛宕学区社会教育委員会では、運動会、七夕祭、敬老会、球技大会、文化祭、新年交礼会など、年間を通じて数々の学区行事を主催しています。しかし、それぞれの行事の参加者はどちらかといえば固定的で、ある行事に参加されても、その他に学区社会教育委員会がどのような行事を行っているのかご存じない方も比較的多くいらっしゃいました。

また、学区社会教育委員会は、こうした学区行事の他にも様々な地域活動を行っています。そこで、参加者がそれらの活動を楽しんでいること、委員会組織がとても良い雰囲気運営されていることなどを学区の住民にもっと知ってもらい、学区行事や地域活動に積極的に参加して欲しいという思いがありました。それは、学区の住民が自分たちのまちに魅力を感じ愛着を持ってもらいたいという思いでもあったことから、平成19年度に学区の情報誌『あたご夢のまちだより』を創刊しました。

◆事業内容

住民の方に愛宕学区社会教育委員会の活動を知っていただくために、主な年間行事の紹介や地域活動の報告を掲載した情報誌を発行しています。また、社会教育委員会関係の事業だけでなく、現在や昔の街並みや近隣の名所史跡などの紹介情報を掲載して、地域（学区）への理解を深めてもらうことを目指しています。

学区社会教育委員会青年部に所属する4名の編集委員を中心として誌面の立案、取材、編集を行っており、年度毎に1回のペースで情報誌を発行し学区内全戸に配布しています。

・主な定番記事

「愛宕学区温故知新」 一時代につれて変遷した、昔の街並みを紹介しています。

「文化祭の彩」 一毎年、学区社会教育委員会文化部を中心とした役員により文化祭の会場に装飾される、趣向を凝らした作品を紹介しています。

「てくてく探検隊日記」一学区内を歩いて散策し、見つけた新発見や再発見を紹介しています。

◆成果

多種多様な行事紹介や活動報告をひとつの誌面に掲載することで、愛宕学区社会教育委員会の事業全般を広く学区住民に周知することができるようになり、創刊前に比べて各種行事への参加者が増加しました。

また、まちへの愛着と地域活動への理解が深まり、地域に貢献したいというボランティアや運営サポーターが行事をお手伝いして下さるようになったり、活動の楽しさや組織の雰囲気良さが理解されて、役員を快く引き受けていただける例もありました。

さらには、読んでいただいた方から「これだけのものをよく作った」というようなお褒めの言葉を頂戴したり、定番コーナーへ情報提供をして頂けるなどの直接的な反響もあり、委員会活動や広報誌の新刊発行に対するモチベーションの向上にも繋がっています。

◆今後の展望・課題

比較的狭い学区なので、地域の情報源には限りがあります。その中で多くの住民に引き続き興味深く愛読していただくために、新コーナーや新たな定番記事の創設などの今後に向けた誌面展開が求められます。

また、学区行事の参加者が最近では横ばい傾向にあるため、より多くの方に行事参加していただけるよう、情報誌により委員会組織と地域活動を一層盛り上げていく必要があります。



愛宕学区社教委員長の水野さんと編集を担当している委員

こんな工夫をしています！

●内容や構成に決まりはなく、自由な発想を大切にしています。

→ 情報誌の内容に決まりはありません。学区に住むすべての人を対象に発行しているため、若者から高齢者の方まで幅広い方の興味をひいて読んでもらえるように、4名の編集委員を中心に毎回工夫を凝らして立案から作成まで行っています。担当者が少人数だからこそ、自由な発想と強い責任感を持って制作ができています。

注目ポイント！

●カラー印刷で、学区内の全戸に配布しています。

→ 視覚に訴え、興味を持って読んで頂けるように、情報誌は全面カラーで印刷しています。そして、より読みやすく記事内容をイメージしやすいように、可能な限り多数の写真に掲載しています。古い写真などは地元住民の方に提供していただいています。

また、家庭でいつでも手に取って読んでいただけるよう、情報誌は全戸配布しており、平成24年度は1,894戸に配布しました。